

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業

(大 崎 町)

大崎町教育委員会

住 所：曾於郡大崎町假宿 1029 番地

電 話：099-476-1111

(防災に関すること)**I 都道府県の規模及び地域環境****1 都道府県の規模と過去の主な災害**

- 人口：13,401人（うち児童・生徒数：924人）
- 学校数：小学校6校 中学校1校
- 主な災害
 - 平成5年 台風による風雨災害
 - 平成27年 台風による風雨災害

2 想定される主な災害とモデル地域選定の理由

本町は、大隅半島の中央部に位置し、志布志湾に面している。町域は南北18km、東西8km、南部は志布志湾に面する7kmにおよぶ海岸線、北部は高隈山に続く山間部と自然豊かな町である。

これまで公表されている南海トラフ巨大地震の被害では、最大震度6弱、津波の到達までの時間は約40分、想定される津波の高さは7mとなっている。また、種子島東方沖地震では、最大震度6弱、津波到達までを約30分、想定される津波の高さは5mとなっている。そのため、地震による津波が発生した場合、海岸地域において大きな被害が及びことが予想される。

本事業においては、海岸線に近く、津波対策を課題としている大丸小学校を拠点校に、同じく海岸線に近い菱田小学校と大丸小校区、菱田小校区から生徒が通う大崎中学校を連携校として指定し、学校間の連携や家庭・地域との連携強化をめざして本事業を実施した。

(モデル地域名・校種毎の数：大崎町、小・6校、中・1校)

II 取組の概要**1 安全教育手法の開発・普及****(1) 緊急地震速報受信端末を活用した避難訓練**

本事業拠点校の大丸小学校、連携校の菱田小学校と大崎中学校に緊急地震速報受信端末を設置

し、推進委員や鹿児島地方気象台職員の指導を仰ぎながら、地震津波避難訓練を実施した。

3校とも事前通知の有無の使い分けをしたり地震速報に応じて避難先を検討したりするなど、複数回の訓練を行った。このことで、学校職員や児童生徒が災害時における危険を認識し、状況に応じて自分の命を守る行動をすることの大切さを学ぶことができた。

(2) 防災教育出前授業

拠点校と連携校の3校において、防災教育の出前授業を行った。

このうち、菱田小学校では、5月に行った避難訓練後、鹿児島大学地域防災教育研究センターの井村隆介准教授に「大地震・大津波から生命を守るために取り組むべきこと」という題で、4年生～6年生児童を対象にした出前授業を実施した。

授業では、地震の揺れから命を守るための行動の仕方や津波から命を守るための逃げ方、周りの人の命を助けるためにできる避難方法、地震が起こる前にしておくべきことなどを学ぶことができた。

(3) 「みんなで考える防災サミット」の実施

これまで拠点校や連携校が取り組んできた防災教育を町内の児童生徒や地域住民に広げることを目的に、10月28日（土）大崎町中央公民館において

「みんなで考える防災サミット」を実施した。ここでは、鹿児島大学や鹿児島地方気象台NTT、志布志消防



署等の関係機関と【ワークショップ（防災カップ作り）】と連携し、ワークショップを実施した。

当日は、推進委員13名、児童生徒118名、保護者や地域住民、報道関係者など109名、合計240

名が参加した。

また、拠点校及び連携校からは、児童生徒や保護者が、防災体験やアンケートによる意識調査について発表したり、防災意識を高めるための提言を行ったりするなどして、地域全体における防災意識の高まりにつなげることができた。

2 被災地支援を通じた体験型防災教育の推進

(1) 被災地支援活動者の講話（菱田小学校）

菱田小学校で、大崎町教育委員会に配属されている地域おこし協力隊員が、被災地支援活動に取り組んでいたため、実際の被災地支援活動についての講話をしていただいた。また、地域で行われている学習支援教室においても、地域おこし協力隊員による講話をしていただいた。

子供たちは、身近にいる人が被災地支援活動をしていることを知り、被災地支援を行うことの意義や大切さを学ぶことができた。

(2) 公開授業（大崎中学校）

大崎中学校において、道徳の授業と関連させた被災地支援活動の意義や社会貢献への意欲を高めるための授業を公開した。

授業では、支援者が被災者に接する時にどのような気持ちで接すればよいかということについて、生徒同士で役割演技をしながら考えを深めることができた。



【道徳の公開授業 大崎中学校】

Ⅲ 取組の成果と課題

1 取組の成果

(1) 防災に対する意識の高揚

拠点校の大丸小学校や連携校の菱田小学校、大崎中学校において、昨年度から南海トラフ地震発生後の巨大津波を想定し、防災の専門家から支援や助言を受けながら「自分の生命を守るために、自ら考え、行動する」という意識を一層高めるこ

とができた。既成の概念や想定、訓練にとらわれず、その場の状況に応じて、自分の身を守るための判断や行動がとれるように意識を高めることができた。

(2) 保護者・地域との連携体制の構築

推進委員として参加いただいたPTA会長、校区公民分館長に、諸会合への参加をとおして、保護者や地域との連携強化の大切さを話していただくことができた。また、町当局と連携を図り、地域住民が参加する防災訓練と学校の避難訓練が連携した大規模訓練を計画することができた。天候により、町防災訓練はできなかったが、今後も関係機関と連携した避難訓練を継続する必要性を学校と地域住民が共有することができた。

2 今後の課題

(1) 他校及び地域全体への広げたい防災意識

これまでの取組で、拠点校や連携校ともに避難訓練や出前授業などを充実させてきた。本事業の成果を町内の他の学校と共有し、出前授業や地域と連携した避難訓練等を実施し、「自分の生命は自分で考え自分で守る」ことを基本にした防災教育が一層充実できるよう、実態に応じた訓練等の推進を進めていきたい。

(2) 地域防災計画等の改善・充実

今年度計画していた、町当局と連携した防災訓練を次年度は実施し、地域全体での防災に取り組んでいくことが重要である。地域の中の学校として、その役割を考え、できることを進めていきたい。

(3) 他市町との連携

今後は大崎町、志布志市、東串良町の志布志湾岸1市2町が連携し、発生が予想される南海トラフ地震や種子島東方沖地震などに対し、防災意識を高め、避難訓練等の充実を図り、できる限り多くの住民の生命を守る取組や方策を生み出していくことが責務であると考えている。

そのために、防災教育の実践について情報を共有したり、合同で訓練を実施したりする等、各市町当局や教育委員会が連携を一層深め、地域に根ざした防災教育を充実させていきたい。